日本歯科医史学会
昭和50年度学術大会講演抄録

1. 石黒忠悳纂述「外科説約」中の歯牙病編について

京都府立医科大学歯科　小野進一郎

石黒忠悳（1845—1941）が，恐らく明治前期に纂述したと思われる「外科説約　巻の19」に歯牙病編として英国のドロイトの外科書より摘取したものが載っている．

その内容は用語は必づしも現在のものではないが，生歯障害，歯列不正，歯牙破折，齲蝕，歯痛，歯髄壊疽，抜歯法，抜歯後出血，歯石等に関するものである．

抜歯には鉗子，挺子（コヂボーといっている）の外に歯鍵を使うことがのっている．

前記内容について若干説明を致します．

2. 1538年（天文7年）以前に作られたと思われる木彫上顎総義歯について

京都大学医学部口腔外科学教室　石井　保雄

現在，わが国の木彫義歯は130個余り発見され，中でも羽間弥兵衛，柳生飛弾守の義歯が最も古いものであると報告されている．

今回，私はこれらより更に約100年古く，和歌山市東参道南畑の願成寺草創者，仏姫が使用していたと言われ，現在，寺に遺品として大切に保存されている木彫上顎総義歯について報告する．

義歯の使用者中岡テイ（女性），法名；光闡，通称名；仏姫

願成等と仏姫との由来；103代後土御門天皇の代，伊太祁曽明神の官詞，中岡定弘の一女が中岡テイである．

テイは13歳の時，京都山科で蓮如上人から仏の教えを受け，仏門に帰依する．法名を光闡と改め，東参道南畑に願成寺を草創し，教えを広め，人々より仏姫とあがめられる．仏姫は天文7年4月20日（1538）74歳で往生する．高僧をしのび仏姫の遺骨，遺髪，仏具および義歯等の遺品を保存し，現在に伝わっている．

義歯の作者；仏姫は生来器用で自分で彫ったものと言われているが，定かではない．

義歯の特長；

1. 素材　黄楊
2. 歯牙，床共に一木彫の上顎総義歯
3. 歯穹が小さく，左右歯牙数が異なる
4. 歯牙は歯槽頂に位して彫刻され，スピー氏彎曲を認める．但し，右側臼歯部がやや不規則を呈する．これは咀嚼機能上，重要な点であるが，下顎歯牙に適合するように彫られたものと推察される．
5. 義歯の維持力を吸着に求めることは現在の理論と大差はなく，特くに前歯舌側面の彫りを深くして構音構成を良効ならしめている．
6. 義歯表面は黒色塗料で塗られ，咬合面と唇側部が剝け落ちている．黒色物はX線回析，赤外線分析の結果，酸化第二鉄が疑われた．

以上の木彫上顎総義歯の詳細について報告する．